

都市再生整備計画 事後評価シート  
日田市中心市街地地区

平成28年3月

大分県日田市

様式2-1 評価結果のまとめ


都道府県名	大分県	市町村名	日田市	地区名	日田市中心市街地地区		面積	323.3ha					
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	1945.5百万円	国費率	0.344						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(市道中央通り線・市道駅前線) 公園(竹田公園) 高質空間形成施設(三隈川周辺ライトアップ整備・街路灯整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(豆田地区観光拠点整備事業) 事業活用調査(事後評価の実施に関する調査)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(①亀山橋整備・②市道竹田公園線・③市道竹田公園内線)	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	地域創造支援事業(①豆田地区観光拠点整備事業)	①市長が交代し政策方針に変更があったため。 ②実施設計の中で地元の意見による。 ③高質空間形成施設から道路へ事業変更。		①②③全ての指標に関連するが指標及び数値目標は据え置く。							
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(①月限公園)、地域生活基盤施設(②中城多目的広場整備・③豆田地区小休憩所整備)、高質空間形成施設(④豆田地区公衆トイレ整備・⑤桂林荘公園トイレ整備・⑥JR日田駅トイレ改築)、高次都市施設(⑦複合文化施設整備)、道路(⑧市道竹田公園内線)	①市長が交代し政策方針に変更があったため。		①指標2の達成が難しいため指標3の追加を行う。							
		提案事業	地域創造支援事業(①屋形船修復事業・②複合文化施設整備)	①②③④⑤⑥⑧観光客の利便性と回遊性の向上のため。 ⑦観光拠点整備のため。		①②③④⑤⑥⑦全ての指標に関連するが指標及び数値目標は据え置く。							
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-								
	変更	変更なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	日田温泉の宿泊客数	人/年	77,718	平成21年度	70,000	平成27年度	-	81,714	○	あり なし	昨今の旅館業を取り巻く社会情勢や経済情勢により下落傾向にあるが、屋形船修復等の実施で、平成25年度以降は回復傾向にある。	平成28年12月
	指標2	豆田地区への来街者数	人/年	592,134	平成21年度	600,000	平成27年度	-	565,152	△	あり なし	● 豆田地区への来街者数は下落傾向にあるが、複合文化施設整備等により、フォローアップ時期までに目標に近づくことを期待する。しかし難しい状況にある。	平成28年12月
指標3	豆田地区の通行者数	人/9h	1,967	平成21年度	1,770	平成27年度	-	2,063	○	あり なし	月限公園整備、中城多目的広場整備等により豆田地区の通行者数は維持されている。		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
	その他の数値指標4												
その他の数値指標5													
4) 定性的な効果発現状況	・三隈川周辺ライトアップ整備・街路灯整備により、夜も安心して歩くことができるようになり、地域資源の活用促進に寄与している。 ・整備した公園は、周辺住民等で賑わい、交流の場となっている。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	各指標数値のデータ収集		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 引き続きデータ収集を実施し、事業効果を確認する					
	住民参加プロセス	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					



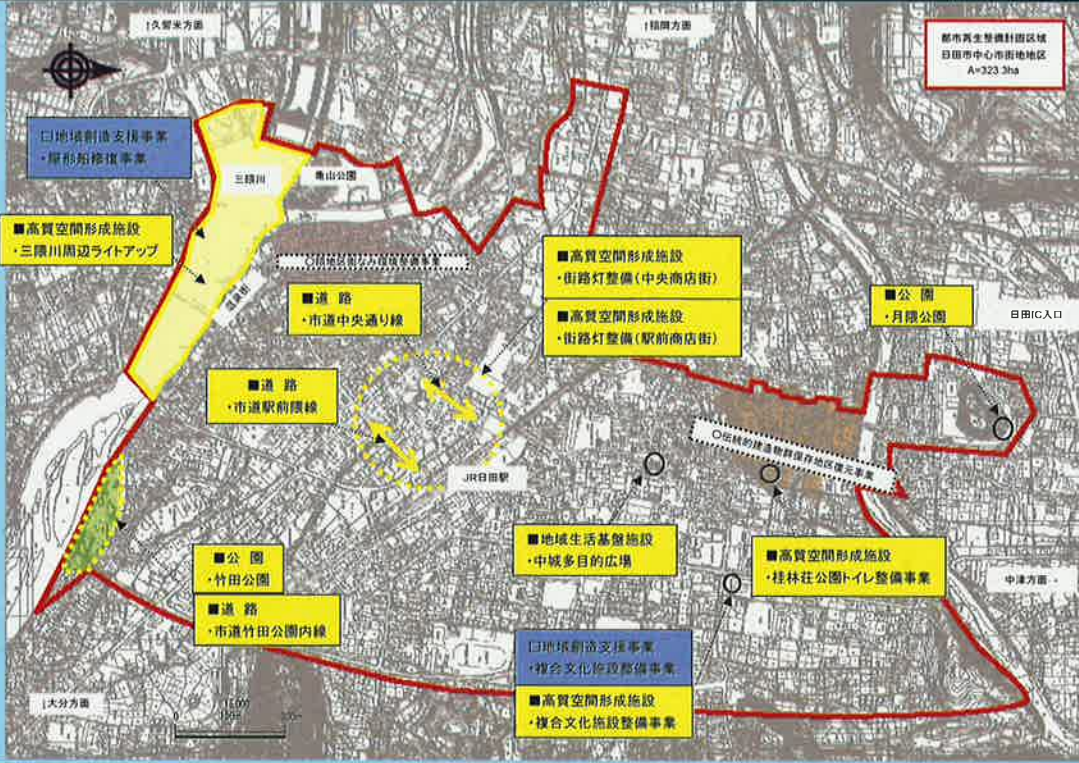
## 様式2-2 地区の概要

日田市中心市街地地区 都市再生整備計画事業の成果概要


まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	従前値	従前年度	目標値	目標年度	従前値	目標年度
大目標: 歴史・観光を切り口に、豊かで特色ある地域資源を活かした中心市街地の賑わいの創出。 目標1: 温泉街や三隈川などの地域資源が豊富な限地区の再生。 目標2: 歴史・観光拠点としての豆田地区の魅力強化。	日田温泉の宿泊客数	単位:人/年	77,718	H21	70,000	H27	81,714	H27(見込)
	豆田地区への来街者数	単位:人/年	592,134	H21	600,000	H27	565,152	H27(見込)
	豆田地区の通行者数	単位:人	1,967	H21	1,770	H27	2,063	H27




屋形船修復事業



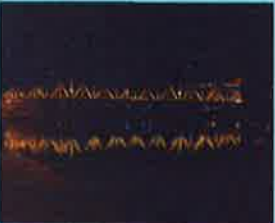
都市再生整備計画区域  
日田市中心市街地地区  
A=323.3ha




市道駅前限線




市道中央通り線



三隈川周辺ライトアップ



街路灯整備



桂林荘公園トイレ整備

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市道中央通り線、市道駅前限線、中城多目的広場、月隈公園、竹田公園、桂林荘公園トイレの整備により、観光客が快適に回遊できる環境の整備ができた。</li> <li>・屋形船修復事業により温泉街の活性化が図られ、観光PR等のまちづくり活動が自主的に行われている。</li> <li>・複合文化施設等の観光拠点の整備が図られたが、今後は観光客の回遊性を高める必要がある。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合文化施設等の観光拠点の整備が図られたが、今後は観光客の回遊性を更に高める。</li> <li>・更なるもてなしと安全な空間を目指し、支障となる道路の改良を行う。</li> <li>・未整備である残りの屋形船の修復を行い観光客の増加につなげる。</li> <li>・更なる観光振興に努め、民間の力を活かしながら、外部流入人口の増加を図る。</li> </ul>

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●			豆田地区の通行者数	豆田地区観光拠点整備事業の取り下げ(交付期間中の事業実施が難しいため)により、当初の指標達成が厳しいため、月隈公園整備等の追加とあわせ、指標の追加を行うもの。
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			



添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道中央通り線	80	L=260m	108	L=260m	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
道路	市道駅前限線	90	L=230m	117	L=230m	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
道路	市道竹田公園内線	84	L=500m	84	L=500m	事業内容の変更。(高質空間形成施設→道路)	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
公園	竹田公園	247	A=21,500㎡	447	A=21,500㎡	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。		●
公園	月隈公園	-	-	53	A=2,700㎡	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	中城多目的広場	-	-	35	A=177㎡	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。		●
高質空間形成施設	三隈川周辺ライトアップ整備	53	ライトアップ	-	-			●	
高質空間形成施設	街路灯整備(中央商店街)	48	65基	58	65基	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
高質空間形成施設	街路灯整備(駅前通り商店街)	51	70基	68	70基	事業費の変更。	事業内容に変更がないため、目標及び指標への影響はなし。	●	
高質空間形成施設	桂林荘公園トイレ整備事業	-	-	11	1箇所	観光客の回遊性向上のため事業追加。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
高次都市施設	複合文化施設整備事業	-	-	98	A=4,517㎡	観光拠点整備のため。	全ての指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く。	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
住宅市街地 総合整備事業									
地区再開発事 業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)		目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度		基準年度		目標年度						あり	なし	
指標1	日田温泉の宿泊客数	人/年	毎年行われる、日田市観光動態調査から日田温泉の宿泊客数を抽出・集計する。評価値については、平成26年の数値とする。	76,248	H17	77,718	H21	70,000	H27	モニタリング		モニタリング		●	
										事後評価	確定見込み ●	81,714	事後評価		
指標2	豆田地区への来街者数	人/年	毎年行われる、日田市観光動態調査から豆田地区への来街者数を抽出・集計する。評価値については、平成26年の数値とする。	682,849	H17	592,134	H21	600,000	H27	モニタリング		モニタリング			●
										事後評価	確定見込み ●	565,152	事後評価		
指標3	豆田地区の通行者数	人/9h	3年に1回行われる、日田商工会議所豆田地区通行料調査報告書の数値とする。評価値については、平成25の数値とする。	-	-	1,967	H21	1,770	H27	モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み ●	2,063	事後評価		
指標4										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		
指標5										モニタリング		モニタリング			
										事後評価	確定見込み		事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	宿泊客数は、評価値が81,714人で目標値の70,000人に達しており、目標達成度は○と判断した。	-
指標2	来街者数は、評価値が565,152人で目標値の600,000人に達していないが、従前から下落傾向にあった数値が平成23年度以降は下げ止まり傾向にあり、目標達成度は△と判断した。	-
指標3	通行者数は、評価値が2,044人で目標値の1,770人に達しており、目標達成度は○と判断した。	-
指標4	-	-
指標5	-	-

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○ : 評価値が目標値を上回った場合

△ : 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度					
その他の数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の数値指標4							モニタリング			
							事後評価	確定		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・三隈川周辺ライトアップ整備・街路灯整備により、夜も安心して歩くことができるようになり、地域資源の活用促進に寄与している。
- ・整備した公園は、周辺住民等で賑わい、交流の場となっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
日田温泉の宿泊客数及び豆田地区への 来街者数、豆田地区の通行者数のデー タ収集	予定どおり実施した	【実施頻度】宿泊客数及び来街者数：毎年度1回 通行者数：3年に1度(別途平成25年に独自調査) 【実施時期】宿泊客数及び来街者数：毎年度4月末 通行者数：3年に1度10月下旬 【実施結果】定期的にデータを確認することにより、まちづくりの進捗状況や 課題等に適宜対応できた。	引き続きデータ収集を実施し、まちづくりの 進捗状況を確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			



(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		指標〇		指標〇	
指標名		日田温泉の宿泊客数		豆田地区の通行者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【道路】市道中央通り線	○	昨今の旅館業を取り巻く社会情勢や経済情勢により、下落傾向にあるが、屋形船修復事業等の実施で、平成25年度以降は回復傾向にある。	○	月隈公園整備や中城多目的広場整備等により、豆田地区の通行者数は維持されている。				
	【道路】市道駅前隈線	○		○					
	【道路】市道竹田公園内線	○		○					
	【公園】竹田公園	○		○					
	【公園】月隈公園	○		◎					
	【地域生活基盤施設】中城多目的広場	○		◎					
	【高質空間形成施設】三隈川周辺ライトアップ整備	○		○					
	【高質空間形成施設】街路灯整備	○		○					
	【高質空間形成施設】桂林荘公園トイレ整備事業	○		◎					
	【高次都市施設】複合文化施設整備事業	○		○					
提案事業	【地域創造支援事業】屋形船修復事業	◎		○					
	【地域創造支援事業】複合文化施設整備事業	○		○					
関連事業									

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後も事業効果確認のため数値の把握を行う。	今後も事業効果確認のため数値の把握を行う。		
-------	-----------------------	-----------------------	--	--



(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
市民文化会館建設や中央公園整備、本庄元町線等のインフラ整備を中央地区の商店街活性化に繋げていく必要がある。	市道中央通り線、市道駅前隈線、街路灯整備により中央地区の商店街の環境が整った。	中央地区の商店街活性化に繋げていく必要がある。	事業の積み残しを次期計画へ繋げる必要がある。
豆田地区の無電柱化事業や伝統的建造物修復事業、月隈公園内の園路整備等により観光客の増加が図られたが、この観光客を隈地区や中央地区、市内各地区へ回遊させる必要がある。	中城多目的広場や桂林荘公園トイレ等の整備により、観光客の回遊性が高まった。	—	
隈地区は豆田地区に比べると観光客数も少なく、今後はさらに「水郷ひた」の象徴である三隈川を活用した光の演出や新たな賑わいの創出を促進していく必要がある。	三隈川周辺ライトアップや屋形船修復事業により賑わいの創出を促進できた。	—	
豆田地区、中央地区、隈地区の回遊性を向上させるとともに、徒歩や自転車での移動を視野に入れ、各地域間に見所箇所等の整備を促進していく必要がある。また、中央地区においては、街独自の魅力を模索し、活性化を促進させる必要がある。	中城多目的広場や桂林荘公園トイレ等の整備により、観光客の回遊性が高まった。また、竹田公園や複合文化施設等の見所箇所が整備できた。	街独自の魅力を模索し、活性化を促進させる必要がある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。



添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	観光客が快適に回遊できる環境を維持する。	中城多目的広場や桂林荘公園トイレ等の適正な管理を行う。	・指定管理者制度 ・ボランティア活動の推進

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	整備された複合文化施設の更なる活用。	地域の観光拠点として、また地域住民の活動の場としてイベントの実施等の支援を行い来訪者の増加を目指す。	複合文化施設オープンイベント
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

- 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
- 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
- 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
- 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
- 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・地域の活性化において、地域住民が主体となったイベントの開催等、ソフト的な盛り上がりも必要不可欠であることから、これらの活動を支援・育成していく必要がある。



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	屋形船修復事業により日田温泉の宿泊客増加につながった。	屋形船修復事業の未着手分を次期計画で実施しさらなる観光客増加につなげる。
	うまくいかなかった点	日田遊船協同組合の資金不足により、計画通りの整備が出来なかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	桂林荘公園トイレ整備で豆田地区の観光客の利便性が向上し、通行者数の増加につながった。	豆田地区の来街者数は減少傾向だが、減少抑制の兆しが見えるため次期計画でも数値目標に掲げ推移を見たい。
	うまくいかなかった点	豆田地区への来街者数は減少見込みとなった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		住民の意見を聞く場を設ける。
	うまくいかなかった点	住民参加の機会が少なかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	柔軟な事業追加により、有効な効果があった。	事業実施中でも変更を含め柔軟に対応していく。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後、事後評価を予定する地区  
平成28年度新規 都市再生整備計画(日田市中心市街地地区)



(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成28年1月下旬～2月下旬	平成28年1月下旬～2月下旬	担当課への意見書、電話、FAX、電子メール	土木建築部 都市整備課 (社会資本整備総合交付金担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	大分大学工学部 准教授 小林祐司	平成28年2月22日	土木建築部 都市整備課	日田市まちづくり交付金事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	日田商工会議所 会頭 高山英彦 日田市観光協会 事務局長 木下周 日田市旅館組合 諫山泰崇				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	評価結果について了承された。
	実施過程の評価	—
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理について了承された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案が、市民に対して適正に公表されたことが確認された。
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きが妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合文化施設等の観光拠点の整備が図られたが、今後は観光客の回遊性を更に高める。</li> <li>・更なるもてなしと安全な空間を目指し、支障となる道路の改良を行う。</li> <li>・未整備である残りの屋形船の修復を行い観光客の増加につなげる。</li> <li>・更なる観光振興に努め、民間の力を活かしながら、外部流入人口の増加を図る。</li> </ul>
	フォローアップ	フォローアップ計画に基づき実施することを確認した。
	その他	—
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると確認された。
その他	—	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。